

『スポーツ健康科学部紀要』 投稿・執筆規定

投稿規定

1. 本誌への投稿原稿は、スポーツ健康科学およびその関連領域の進歩に寄与する学術論文を主体とし、他誌に掲載されていないもの、もしくは掲載予定のないものに限る。原稿の種類は、「研究論文」「書評」「総説」その他とする。
2. 本誌掲載後の論文の著作権は、流通経済大学に帰属し、掲載後は流通経済大学の承諾なしに他誌に掲載することを禁じる。
3. 投稿者は、掲載された論文が電子化され、本図書館のホームページ等を通じてネットワーク上に公開されることを承認するものとする。
4. 投稿は原則として流通経済大学に所属している者に限るが、学術研究委員会の決定により学外の著者に投稿を依頼することができる。
5. 投稿論文の採択・掲載順は、学術研究委員会で決定する。ただし、その決定については学部教授会の承認を得なければならない。また、学術研究委員会の責任において、多少字句の訂正をすることがある。
6. 原則として11月末日の日付をもって投稿原稿の受付の締切日とする。著者校正は最低2回の校正を行い、すべて執筆者の責任校正とする。
7. 本内規の改廃は学術研究委員会の議を経て学部教授会の承認を得なければならない。

執筆規定

1. 原稿は和文または英文とする。
2. 原稿（「研究論文」「書評」「総説」）は表題ページ、著者ページ、要旨およびkey words、本文、文献、図・表および説明文より構成される。
 - ① 1 ページ目は表題ページとし、表題のみを記載する。
 - ② 2 ページ目は著者ページとし、筆頭著者および共著者の氏名、所属、住所、連絡先住所（所属と同じ場合は不要）を記載する。英語論文の場合でも、日本国内に在住の場合には必ず和文で連絡先住所を記載する。
 - ③ 3 ページ目は要旨ページとし、和文および英文で表題、全著者名とその所属、key words（3～5つ）を明記する。400字以内の和文あるいは250語以内の英文で、論文の要旨を記載する。
 - ④ 本文は①～③の必要ページとは別にページを改めて始め、ページに通し番号をつける。
 - ⑤ 図・表は1 ページに1 点ずつ記載する。図には原則として説明文をつける。

3. 論文は原則としてワードプロセッサもしくはパソコンのワープロソフトを使用し、A4判に横書きで記載する。文字の大きさは11ポイントに設定し、なるべく英数字は半角、カタカナは全角で入力する。フォントは見出しにはMSゴシック体を、本文にはMS明朝体を用い、特定の語句を強調するためのゴシック体の使用やアンダーラインは避ける。
4. 文章は楷書・口語体・現代仮名遣い、数字は算用数字、単位は国際単位系（SI単位）を用いる。
例）長さ：m、質量：kg、時間：s、温度：℃、周波数：Hz
5. 特定の機器・薬品名を本文中に記載するときには以下の規定に従うものとする。
 - ①機器名の記載にあたっては、一般名（会社名、商品名）と記載する。
例）MRI（Siemens社製、Magnetom）
 - ②薬品名の記載にあたっては、一般名（商品名）と記載する。
例）塩酸エペリゾン（ミオナール）
6. 引用文献は引用順に記載し、通し番号をつける。本文中および要旨文中の引用箇所には上付き数字で文献番号を記載する。文献の省略は公の省略法（Index Medicus）に従う。引用文献の著者が4名以上の場合には最初の3名を書き、他は「ほか」、またはet al.とする。
 - ①雑誌の場合：著者名、題名、雑誌名、発行年、巻(号)、ページ
 - a) 陶山哲夫、高橋邦泰、渋谷秀雄、ほか：脊髄損傷者の社会生活状況—10年以上の経過例—。日本パラプレジア医学会雑誌，14：196-197，2001.
 - b) Kobetic R, Triolo RJ, and Marsolais E: Muscle selection and walking performance of multichannel FES systems for ambulation in paraplegia. IEEE Trans Rehabil Eng, 5 (1): 23-29, 1997.
 - c) Otsuki T, Maeda S, Iemitsu M, et al.: Vascular endothelium-derived factors and arterial stiffness in strength- and endurance-trained men. Am J Physiol Heart Circ Physiol, 292 (1): H789-H791, 2007.
 - ②単行本の場合（単著）：著者名：書名. 発行者: 発行地, ページ, 発行年
 - a) 千野直一：臨床筋電図・電気診断学入門. 医学書院: 東京, pp165-180, 1977.
 - b) Kapandji IA: The physiology of the join, 2nd ed., ES Livingstone Edinburgh: England, pp165-180, 1970.
 - ③単行本の場合（共著）：著者名：書名. 編集者名, 発行者: 発行地, ページ, 発行年
 - a) 上野裕一，荒川崇，伊藤武，ほか：ラグビーの力. 上野裕一編，叢文社：東京, pp163-176, 2007.
7. 「研究論文」「書評」「総説」以外に分類できる投稿原稿並びに英語以外の外国語で書かれた投稿原稿の字（語）数制限等の取扱いについては学術研究委員会において決定する。また、投稿原稿の形式等については、学術研究委員会が修正を求めることができる。
8. 原稿は原則としてワープロで作成し、印刷した原稿1部を提出する。その際、原稿の電子データをCD-ROM等に保存して、印刷原稿に添付する。電子メールでの添付ファイルは不可とする。

投稿原稿の種類

●研究論文

1. 「原著論文」は、科学論文としての内容と体裁を整えているもので、新たな科学的な知見をもたらすものである必要があります。ただし、人文系と自然系の論文構成には違いがありますので、論文の構成や見出しはそれぞれの研究領域に応じて適切なものを用いてください。
2. 「研究資料」は、調査や実験の結果を主体にした報告であり、体育学の研究上、客観的な資料として価値が認められるものです。この場合、原著論文に必要な見出しや、それに相当する内容のすべてを含む必要はありませんが、関連研究とのつながりの中で、その資料を提出することの意義が明らかであり、資料そのものの説明が十分になされている必要があります。
3. 「実践研究」は、現場からの貴重な情報を基にした研究で、指導法に関する実用的研究や、総合的に分析した研究などが含まれます。
4. 「事例報告」は、特定の少数の事例を詳細に調査・研究し、その結果を報告することによって、体育学の発展に寄与できるものです。
5. 「内外の研究動向」は、国内外の研究動向のうち、会員に周知させることが望まれるものに限ります。

●「書評」は、本学会の諸分野にかかわる単行本の全部または一部の概要が明瞭であるとともに、その内容に従った問題提起を含む必要があります。

●「総説」は、特定の研究領域に関する主要な文献内容の総覧ですが、その内容は、単なる羅列ではなく、特定の視点に基づく体系的なまとまりを持つ必要があります。

●「その他」とは上記以外のものとする。

附則 本規定は平成22年11月9日より施行する。